

NEWS LETTER

VOL. 5
AUG 2018

WHOの人事政策動向とその意味するもの

WHOは、グローバルヘルスポストが存在する有力な国連機関ですが、採用方針がテドロス新事務局長のもとで変わりつつあります。当センターでは、直接、人事担当幹部から最新の情報を入手しており、5月のWHO総会時に関係者で会合が持たれました。まず、ジェンダーと国別のアンバランスの是正方針が出され、有為な応募者からの最終選考において強く配慮されるようになりました。これは、職員数が少ない我が国からの応募者、特に、女性にとっては極めて有利な条件となります。一方、職員の地域ローテーションと定年延長（62歳から65歳へ引き上げ）が2019年から始まるため、退職による空席が出来にくくなること、できたとしても内部からの異動がまず考えられ、適任者が居ない場合に外部から採用されるため、新規での採用は難しさが増したという側面もあります。この

ような状況ではありますが、競争試験に打ち勝つ候補者を発掘し、ワークショップや個別相談などによって競争力をつけて適切なポストに応募して頂くことの価値はますます高まったものと考えます。また、短期ポジションについては、健康危機管理部門を中心に多くの公募がなされていますので、長期ポジション獲得の第一歩として位置づけて、応募してみることも一考に値すると思います。加えて、UNFPAを始めとする保健関係の国連機関やグローバルファンドなどの国際機関（パートナーシップ）での募集も多々ありますから、グローバルヘルスポスト即ちWHOポストとの固定観念を超えて、様々な可能性を検討されると宜しいでしょう。当センターが原則毎週更新する国際機関空席情報は、公募ポストのワンストップショップとして大いに役立つはずで

センターの活動状況：

グローバルヘルス・キャリア・ワークショップ -医療資格を持つ人・持たない人・すべての人のために- が開催されました



標記ワークショップが7月14日（国立国際医療研究センター）と翌15日（大阪大学医学部）に開催され、炎暑の中、それぞれ70名、35名の参加がありました。グローバルヘルスに関わる国際機関では、医療関係の国家資格を有する方だけでなく、組織の管理運営・財務・人事・広報・法務・IT等に携わる非医療従事者の方々も数多く活躍されています。しかしながら、日本国内ではこのような事実はあまり知られておらず、また、勤務を希望される場合でも、組織・ポスト、採用プロセス等の情報について、多くは知られていません。こうしたことから、グローバルヘルスに関わる人材の多様性についてご説明すると同時に、世界保健機関（WHO）、グローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）、Gavi（Gavi ワクチンアライアンス）の3つの国際機関を中心に、それぞれの組織・ポスト、採用プロセス、業務内容を講義、演習、そして現役の方々の体験談から学んでいただきました。また、合格のカギとなるCVの書き方、コンピテンシー・ベースド・インタビューの受け方に関しても、演習を通じて具体的なアドバイスを行いました。最後に希望者には、個別面談を実施しました。当センターでは、具体的な採用に向けて関係機関と連携を密にしております。

■ 今後のイベントのお知らせ

Save the Dates

当センターでは以下を主催あるいは共催することとして準備を進めており、確定し次第、当センターのウェブサイトとメーリングリストでお知らせいたします。

1. 看護人材の為のグローバルヘルス・キャリア入門セミナー
日時：2018年9月20日（木）
17時開始
会場：東京（聖路加国際大学）
関西（兵庫県立大学）
2. 日本公衆衛生学会 総会・自由集会
日時：2018年10月25日（木）夕方
会場：ビッグパレットふくしま
3. 国際臨床医学会オープンフォーラム
日時：2018年12月8日（土）夕方
会場：東京大学本郷キャンパス
4. Go UN・WHO グローバルヘルス・ポジション獲得に向けた競争力強化ワークショップ
日時：2018年12月9日（日）全日
会場：NCGMを主会場にして
サテライト会場を複数設置する
方向で検討中